

自治体SDGs推進評価・調査検討会からの講評

区分	講評
北海道本別町	・ 自分事で話しており、良い印象である。 ・ 小規模自治体が作った申請書としては、とても良くできている。 ・ 課題を的確に把握しており、これまでも地域事業者や町民への啓発、協働へ向けて努力してきた。専門家も適任と思われる。 ・ 本別町の提案は、事業化へのハードルを越えて、事業計画、事業具現化へのノウハウ獲得と支援組織構築の人材を入れる良い提案である。期待したい。 ・ 具体的に地方創生に富む大学の組織の専門家を対象としており、実現性が高いものと推察する。 ・ 専門家は他自治体の支援を行っており、その経験共有をして自治体連携のサポートを行っていることは良いのではないかな。 ・ 最大の課題は官民共創での事業化だと感じた。勉強会・アンケート調査より事業モデル構築が必要だと考えている。 ・ 提案内容が都市型の官民共創推進モデルのように見える。ただ、SDGs 未来都市提案で、そういったスキームが先行してしまい、地域（市役所含む）の内発性が置き去りにされており、本モデル事業でそこをしっかりと固めたい、ということであれば、それはそれで意義がある。本提案の「課題」は何なのか、より明確に示される必要がある。 ・ 予算と人的資源が限られているため、優先順位をつけて事業化すべきである。 ・ 民間提案制度の募集を各地で行っているが、その後に、実践へと進化できていない地域がほとんどである。 ・ 地域として何をすべきかに関する自己分析を深め、具体的にどのような事項を専門家に検討してもらうか、焦点を定める必要がある。 ・ 予算の半分以上を地域課題解決型モデル事業の構築に充当しており、説明を期待する。